

研究指定校名 : 鳥取市立高草中学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立高草中学校
学級数	13学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全生徒数：262人（令和2年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/takakusa-j/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

互いを尊重して進んで学びあい、自分の未来を切り拓く生徒の育成
～「授業のユニバーサルデザイン化」の視点を活かした授業づくり・環境づくり～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校では、教育的な支援を必要とする生徒や発達障がいのある生徒が高い割合で各クラスに在籍しており、従来どおりの授業を行っていても授業内容の理解が十分でなかったり、授業中の集中力が続かなかつたりするなどの実態がある。また、平成29年度～30年度の全国学力・学習状況調査から「自分に自信が持てない」、「授業がわからず、落ち着いた学校生活を送ることが難しい」などの結果も見られた。

これらの課題に対して、次のような仮説から改善に迫ることができるであろうと考えた。

望ましい人間関係を築き学ぶ楽しさを体得することで、学習意欲が向上し、学校での人間関係が安定する。そして、自己肯定感も向上し意欲を持って学校生活に取り組む生徒が増える。それが、確かな学力の定着やいじめ防止につながる。

これらの仮説に基づき、平成29年度から授業のユニバーサルデザイン化（以降UD化）を意識した授業改革に取り組み始めた。平成30年度は『互いを尊重して進んで学びあい、自分の未来を切り拓く生徒の育成～「授業のユニバーサルデザイン化」の視点を活かした授業づくり・環境づくり～』という研究テーマを掲げ、授業のUD化の推進、学ぶ意欲の向上と習慣化をめざして研究を進めてきた。授業のUD化については事業指定を受け本格的に取り組むことができた。平成30年度は「場の構造化」として教室環境の整備、「時間の構造化」として授業の見通しの提示を行った。見通しの提示としては「めあて」「活動タイム」「振り返り」のカードを活用し、本時の授業内容や、今何をしているのかなどをわかりやすく提示するようにしていった。また、教材の「視覚化」「共有化」を意識し、TVモニターやパソコンを使用した見やすくわかりやすい資料提示を行ったり、班活動や話し合い活動では簡易ホワイトボードを使いお互いの意見を共有したりする場面をつくるようにした。しかし、ただ班やグループを作ってもそのスキルが不足しているため話し合いができないという実態もあったため、短時間グループワークトレーニングを取り入れた。週に一回「Tタイム」という名称で継続して他者の意見を受け入れる活動に取り組むことにより、人間関係も円滑になり話し合い活動がスムーズにできるグループが増えていった。これらの取組の結果、徐々に落ち着いて学習に取り組む生徒の数が増え、生徒間トラブルや問題行動の発生件数は明らかに減少してきた。

「学ぶことが楽しい」ということは、授業で「わかった」「できた」という継続的な体験をすることである。そのためには、生徒全員が意欲を持って授業にのぞめることが大切であり、我々教師の授業改革への取組は必須である。また「わかった」「できた」と言える授業をつくるためには、誰もが「わからない」と言え、自分の発言を周囲が受け止めてくれると思えば安心して発言できるような、一人ひとりの人権が尊重された生徒間の円滑な人間関係が担保された環境をつくることも必要である。

平成31（令和元）年度もこの事業指定を継続して受け、授業展開の構造化として「ねらい」「目標」を焦点化した授業づくり、授業に山場を設定しそこから逆算した「しかけ」をつくる授業の流れの研究、板書の構造化として授業の流れがわかる板書の研究等を行った。また、授業改革と平行してよりよい人間関係を構築していくための短時間グループワークトレーニングの継続と工夫、学校行事を活用した異学年交流を通じた集団づくり、リーダーづくり等で、それぞれの学年、学級が安心して生活できる場所、自分を表現できる場所となるようにしてきた。

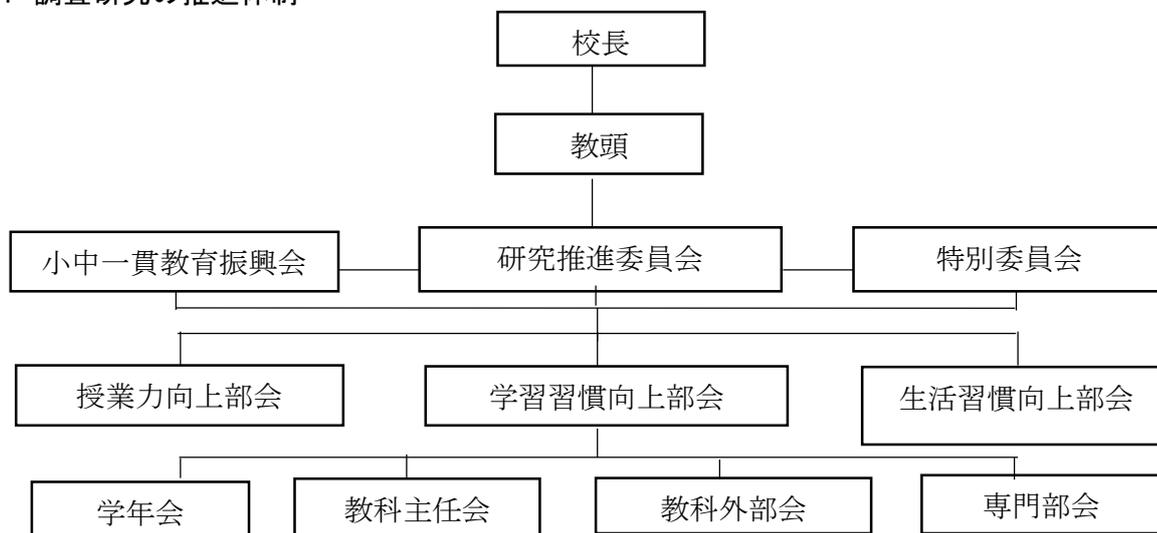
このようにさまざまな課題改善に向けて、人権が尊重された学校づくりの視点を持ち、生徒がお

互いの関係性を尊重しながら、主体的かつ協働的に授業に参加し、生徒がわかった、できたなど、達成感を得ることができるような授業改善をめざすとともに、自らの道を自らの力で切り拓いていくことができる力をもった生徒を育成していきたいと考えた。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	
④障害者	
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



(関係協力機関) ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 現状の分析と課題

本校の生徒の課題として、「自尊感情が低い」「将来への夢や目標がない」「学力が低い」などが挙げられる。平成30年度の全国学力・学習状況調査の質問紙では「自分にはよいところがあると思いますか」「家で学校の授業の予習復習をしていますか」、「授業以外に1日どれくらい勉強しているか」などの項目が、全国よりも10ポイント以上も低かった。「放課後何をして過ごすことが多いですか」「週末に何をして過ごすことが多いですか」という項目では、平日や週末の家庭での時間をテレビ、ネット、ゲームに費やしている生徒の数が全国より10ポイント程度高かった。ここから、自分に自信を持たず、学校での授業に理解が深まらず、家庭において学習時間が少ないという様子が見てとれる。

一方、本校が独自に実施している学校評価アンケート調査では、平成29年度に比べ好転している項目として「自分にはよいところがある」という項目に対して肯定的な回答が62%（平成29年度同時期53%）、「授業がよくわかる」に対しても肯定的な回答が75%（平成29年同時期66%）であった。平成29年度に比べ上昇傾向にあるが、まだまだ高い数字とは言えない。加えて今年度の研究成果を測る項目として「授業では自分のクラスは発表しやすい雰囲気がある」を加えた。6月のアンケートでは肯定的評価が約75%であったが10月のアンケートでは約80%に上昇していた。授業改革、人間関係づくり等、今年度の取組が少しずつではあるが成果を出してき

ているとも見て取れる。

学校全体や各クラスでの集団の質が改善傾向にあるが、本校の実態として、今後も特別な教育的支援を必要とする生徒や発達障がいのある生徒が、かなりの割合で各学級に在籍することが予想され、生徒理解と共に粘り強い指導が必要である。

(2) 調査研究の内容

- だれもが「わかった」「できた」といえる授業づくりと、「わからない」と言える生徒間の相互理解を深めるための、人権が尊重された環境づくりを行う。
- 学校行事を活用し、誰もが活躍できる場面や助け合う場面、そして、互いのよさが認められる場面の意図的設定を行う。

(3) 実施方法

授業力向上部会・学習習慣向上部会・生活習慣向上部会の3つの研究部会の取組を通して、生徒一人ひとりに自己肯定感を持たせ、自尊感情を高めることで、自らの可能性を信じ、目標に向かって前向きに努力する生徒の育成を図っていく。そして、自他の違いを認め、互いに尊重し合う意欲や態度を育て高めていくことで、いじめのない学校づくりにつながるものとする。具体的には、以下の三部会で実践を進めた。

① 授業力向上部会：ユニバーサルデザインを意識した授業研究と教職員研修

本年度の到達目標として以下のものを掲げ、全教職員で確認し実践した。

- a) ねらい(めあて)の焦点化及び単元の系統性を研究する「授業の焦点化」
- b) 授業の中に二つの山場を設定し、それぞれ、生徒の達成目標(めあて)と教師の達成目標(ねらい)に向かっていくための足場となる「しかけ」を追究する「展開の構造化」
- c) 授業の流れがわかる構造的な板書を追究する「視覚化」
- d) ミニホワイトボードなどを活用する活動タイムの効果的な運用を追究する「共有化」

(ア) 授業研究会

本年度は、年に4回の校内授業研究会を行い、第1回・第3回校内授業研究会には、京極澄子先生(元明星大学発達支援研究センター)を講師としてお迎えし、指導助言をいただき、その後の研究推進に活かすことができた。

本年度実施した授業研究会の詳細は以下の通りである。

- 第1回授業研究会(令和元年6月18日(火))
理科「植物のくらしとなかま」 第1学年1組 吉岡 雅洋 教諭
- 第2回授業研究会(令和元年9月17日(火))
特別の教科道徳「ゴミ箱をもっと増やして」 第1学年3組 土海真由美 教諭
- 第3回授業研究会(令和元年11月7日(木))
技術・家庭科「よりよい消費生活のために」 第2学年3組 米澤 靖子 教諭
- 第4回授業研究会(令和2年2月7日(水))
特別の教科道徳「『看護する』仕事」 第1学年2組 山崎 裕二 教諭

6月の授業研究会では、京極澄子先生から「授業の焦点化」について、山場の設定と単元の系統性を重視することについて指導助言をいただいた。山場の設定については、授業の目標到達点をわかりやすくすることが大切であり、「山場1」から逆算して「めあて」(生徒の到達目標)を明確にすること、「山場2」から逆算して「ねらい」(教師の到達目標)を設定すること、これらを連動することによって、生徒たちの「わかった」「できた」を引き出していくこと、また、単元の系統性の重視については、「めあて」と「めあて」をつなげること、既習内容を使える工夫を仕組んでいくことなどの助言をいただいた。次に、「展開の構造化」については、生徒たちの集中力は20分から25分までしか続かず、授業の真ん中に休息(足場)タイムを設定し、次のステップに向けての足場の時間となるように工夫することを助言いただいた。そして、授業の後半10分程度を習得・活用タイムとし、「第2の山場」として「ねらい」(教師の到達目標)に到達させる授業の展開にしていくことを助言いただいた。

11月の授業研究会では、6月に助言いただいた授業の目標到達点をわかりやすくするために「二つの山場設定」と「単元の系統性」を重視することを意識して授業研究を行った。また、研究授業の中では、「活動タイム」の効果的な運用を行うために、各班のプレゼンテーションや自分の考えを大切にしたい投票を行わせるなど、生徒たちの活動の場面を設け、それを足場として「めあて」(生徒の到達目標)へ到達させる場面である「第1の山場」の工夫が行われた。さらに、「ねらい」(教師の到達目標)へ到達する場面である「第2の山場」で活用・習得をねらった活動がなされた。そして、授業の終わりに活用する単元シートにより、単元の系統性を重視すると共に、既習内容を振り返られる情報の源となるよう仕組まれた。

京極澄子先生からは、「授業者が、めあてとねらいをもって授業に臨んでいる。」「単元シートが素晴らしい。」「見通しを立てられ、既習内容を振り返ることができる。」などのことについて評価をいただいた。しかし、模造紙のまとめ方や発表の仕方については、クラスや班

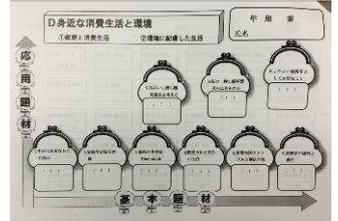
の人間関係づくりが影響してくるので、これから継続的に経験を積み上げていくことが大切との助言をいただいた。



第1回研究授業



第3回研究授業



単元シート

(イ) 授業UD化研修会

前年度までの取組や成果と課題、そして、それを踏まえた本年度の研究推進の方向性を確認することを目的に、4月に全教職員対象として授業UD化研修会を行った。そして、8月には、第1回授業研究会を経て、各教科での研究の進捗状況を確認し、夏休み明けの授業開始に合わせ確認を行った。

(ウ) 一人一公開授業の実施

本年度後期に入り、校内授業研究会での成果や課題について、全教職員で確認し実践に活かしていくことを目的として、一人一公開授業を実施した。第1回授業研究会並びに授業UD化教科会を受けて、特に、「めあて」（生徒の到達目標）の達成のための「第1の山場」の設定、そして、「ねらい」（教師の達成目標）の達成のための「第2の山場」の設定に工夫していくことに重点を置いた。その後の第3回授業研究会以降は、活動タイムでの班・ペアなど、小グループの効果的活用を追究していった。

② 学習習慣向上部会：短時間グループワークトレーニング(Tタイム)の実施

(ア) 取組

自己理解や他者理解を深めると共に、自尊感情を高めさせ良好な人間関係と質の高い学習集団づくりをねらいとして、昨年度から継続して短時間グループワークトレーニング(Tタイム)を実施した。また、別の角度からのねらいとしては、生徒個々のコミュニケーションスキルの向上や小集団(生活班)での活動の活性化を図り、授業の中で活かすことができるスキルを身に付けさせることも意識した。具体的には、生徒間での話型(「～です。」など、丁寧な話し方を身につける。)、傾聴(うなずき・視線・表情を大切にする。)などのマナーやルールを体得させることで、自他を尊重する態度を育成すると共に、学習規律を習得させ班活動を活性化させることに努めた。本年度は、開始時に「自他を大切に話す方・聞き方のマナー・ルール」を再確認することから始め、新たなショートエクササイズも加え、生徒たちのマンネリ化の防止と共に、授業の中で有効に活用できる質問項目等も追究した。

Tタイムの様子



(イ) 実施方法

年度当初に全職員に向けて研修を行い、まずは職員が手法に慣れていくことから始めた。毎週水曜日の6限終了後の10分間を基本として、「二者択一」及び「アドジャン」を入れ替えながら実施した。そして、今年度は新たに「サイコロトーク」を三つ目のエクササイズとして取り入れた。1月末現在で27回実施した。

③ 生活習慣向上部会：学校環境適応感尺度(アセス)検査の実施

(ア) アセス検査の実施について

学校環境適応感尺度(アセス)検査は、生徒一人ひとりが感じているSOSの度合いを測り、教師の観察やその他のデータを照らし合わせることで、よりの確な支援方法を構築することを目的として、一昨年度までのQ-U調査に代わるものとして昨年度より実施している。アセス検査は、生徒一人ひとりの適応感全体を包括的かつ多面的に判断できる尺度である。生徒がそれぞれ感じている「生活満足感」・「教師サポート」・「友人サポート」・「非侵害的關係」・「向社会的スキル」・「学習的適応」の6つの要因をアンケート形式で検査し、その得られた数値をもとに「学級内分布票」及び「個人特性票」によって結果が表される。本年度は、二回のアセス検査実施とその検討会(教職員研修)を行った。

(イ) アセス結果の検討から

第1回アセス検討会(7月24日)では、講師の鳥取市教育委員会漆原真一主任から、「学校環境適応感尺度(アセス)の使い方・活かし方」について指導をいただいた。最初に、極端な特性を表している三人の生徒について事例検討会を行った。その中で、実際の「個人特性票」の読み方・活用の仕方を指導いただいた。その後、各学年に分かれてグループ協議の形式で各クラスの「個人特性票」と「学級内分布票」を持ち寄り個人・クラス・学年の傾向と分析を行い課題を見出し、そして、夏休み明けの支援方法を検討した。

第2回アセス検討会(12月4日)では、第2回アセス検査をもとに、1回目の実施結果との比較を行い、「個人特性票」及び「学級内分布票」について検討した。夏休み明けからの支援方法について成果として表れているものを抽出し、課題について精査した。

(4) 検証・評価・普及

○学校評価アンケート(生徒用)による検証及び評価より

【授業に関する質問項目】 (全校)

質問項目	肯定的回答(はい・まあまあ)		
	6月	10月	前回比
授業にすすんで取り組んでいる	89.2%	91.9%	2.7%
授業中、先生や友だちの話をしっかり聴いている	95.2%	93.1%	-2.1%
授業では自分の考えを伝えたり説明したりできている	67.2%	68.8%	1.6%

「活動タイム」の中で班活動やペア学習が積極的に取り入れられ、ホワイトボードを活用した班の話合いや発表活動等、自ら進んで授業に参加しているという意識を持つ生徒が増えていると思われる。実際、授業を観察していると、年度当初に比べ、生徒たちの授業に参加する姿には集中力が高まっていると感じる。しかし、自分の考えを伝えるなどの話し方については、次年度への課題として取り組んでいかなければならない。これは、第3回授業研究会で京極澄子先生から助言いただいた、「班発表・個別の発表など、発表の仕方・話し方について、全教職員で育てていく必要がある。」に直結していると分析する。

【授業に関する質問項目】 (全校)

質問項目	肯定的回答(はい・まあまあ)		
	6月	10月	前回比
自分にはよいところがある	69.8%	70.4%	0.6%
自分が好きだ	60.5%	59.9%	-0.6%
将来の夢や目標を持っている	72.5%	77.3%	4.8%

上記の質問項目は、いずれも昨年度の数値と比較すると上昇傾向にある。昨年度に授業力の改善を求め、教職員全体で、「授業のUD化」の形と方向性を整え、本年度、その質の向上を図り研究を推進している結果であると分析する。普段の学校生活の様子を観察していると、自分に自信を持って行動できている生徒はまだ少ないように感じられる。来年度は、本校生徒の自尊感情を高める研究を推進したい。

【人間関係づくりに関する質問項目】 (全校)

項目	肯定的評価(はい・まあまあ)		
	6月	10月	前回比
みんなで(協力して)何かをするのは楽しい	90.6%	96.8%	6.2%
授業では自分のクラスは発表しやすい雰囲気がある	79.7%	77.3%	-2.4%
友達のよいところを認めている	94.8%	96.7%	1.9%
みんなと協力して学級での活動や行事に取り組んでいる	93.9%	93.9%	0.0%
縦割り組団での行事や活動などに意欲的に取り組んでいる	86.8%	93.9%	7.1%

今年度から、各学年3クラスとなり、縦割り組団活動を実施した。運動会・文化祭等を通して、異学年との交流が行われ、上級生からの温かい励ましの言葉により、下級生たちは感謝の気持ちを強く持つことができたようである。また、クラス内での互いの認め合いや温かい言葉が増えていると思われる。

○普及

高草中学校区小中一貫振興会の中で、校区小学校の先生方に中学校での「授業のUD化」の取組について共通理解を図った。また本校の校内授業研究会への出席もいただいた。学校評価アンケートの集計結果及び研究の成果については、学校ホームページで発信した。

(5) 実施結果

月 日	内 容	備 考
4月 4日	・Tタイム職員研修	参加者28人
4月 5日	・「授業のUD化」職員研修会	参加者28人
5月 8日	・第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者1人

5月13日	・第1回研究推進委員会	参加者6人
6月3日	・第2回研究推進委員会	参加者6人
6月10日	・第1回学校評価アンケート実施	対象 全校生徒
	・第1回アセス検査実施	対象 全校生徒
6月18日	・第1回校内授業研究会 第1学年1組 理科 「植物のくらしとなかま」 授業者 吉岡 雅洋 教諭 指導助言 京極 澄子先生 (元明星大学発達支援研究センター) 鳥取県教育委員会 人権教育課 山本 裕児 指導主事 鳥取市教育委員会 学校教育課 福田 美奈 指導主事	参加者26人
7月24日	・校内研修会(第1回アセス検討会) 指導助言 鳥取市教育委員会 漆原 真一 主任	参加者24人
8月2日	・授業UD化校内研修会(講師 研究主任)	参加者25人
8月21日	・第3回研究推進委員会	参加者8人
9月17日	・第2回校内授業研究会 第1学年3組 道徳「ゴミ箱をもっと増やして」 授業者 土海真由美 教諭 指導助言 鳥取県東部教育局 角田 亘 指導主事	参加者26人
9月30日	・第2回学校評価アンケート実施	対象 全校生徒
10月29日	・第4回研究推進委員会	参加者7人
11月7日	・第3回校内授業研究会 第2学年3組 技術・家庭科「よりよい消費生活のために」 授業者 米澤 靖子 教諭 指導助言 京極 澄子先生 (元明星大学発達支援研究センター) 鳥取県教育委員会 人権教育課 山本 裕児 指導主事 鳥取市教育委員会 学校教育課 福田 美奈 指導主事	参加者25人
11月8日	・第2回アセス検査実施	対象 全校生徒
12月4日	・校内研修会(第2回アセス検討会)	参加者25人
12月18日	・先進校視察(中学校授業UDサミットin富山)について 職員会で報告	参加者24人
1月20日	※第3回学校評価アンケート実施	対象 全校生徒
1月27日	・第5回研究推進委員会	参加者8人
1月29日	・研究部会反省会(授業力向上部会・学習習慣向上部会・生活習慣向上部会)	全教職員
2月7日	・第4回校内授業研修会 第1学年2組 道徳「『看護する』仕事」 授業者 山崎 裕二 教諭 指導助言 渡邊 由美 指導主事 (鳥取市教育委員会)	参加者26人
2月10日	・人権教育研究推進事業報告会 ・第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者2人 参加者2人

(6) 人権教育に係る年間指導計画

別紙